

Kodak

LICENSED PRODUCT

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000



敵討奴小万代記

六
鉞
五

13
187
5



於
187
A

芸草堂

本久

小本鉄

東京堂
醫學圖書



一名 いつまかり
新登利佳衣走耶物語

万川

淨観寺の愛童小万実ハ
秋田宗昌の女後尼とさやを

久て松栄とふ



雲井

武蔵國梶原資民の妻女志のぶ実ハ
入江安濃ひらの長男から女姿と

なり雲井とよび



後隠倉

五八とあ

目錄

一 行童ぎやうどう剛ごうと割わて女むすめと頭あたまと

二 旌せい俠ぎやく縣けん小せう花はな子こと濟すけふ

三 雲うん鬼き夢ゆめ小せう危き急きゆうを告つぐ

四 孝こう子し難なん波は小せう仇あだ以い報はくふ

五 暗あん夜や小せう走そうつと情じやう死しを止とむ

六 女むすめ僧そうと成なりて長ちやう壽じゆうを保たもつ

下編大尾

例言

○此書男女のそと異ありと。どううへなや物語りか
 似されば。夥しううへなや物語と名づくべし。といひしを
 思女の目まらねと。後編の奴の小きんと記さるや
 と書房の工ぶふやうやかくありぬと。目まらうひさく
 者板小眉目と画ふ似たり
 ○空中は実あるい。こゝをそとち異れと。こゝは作物語の
 風界へ前編よりゆれてくる。狂花宿月よ及
 ざりたり
 ○信大が女まごのこゝり。黄熟香小姉才あつとまら。

情死小あかりけく小臨と忌ちらうがおごり。そと唐衣が
 ゆりの告ふりて。後編のそとあてらぬゆきと多し。
 わづかひされつ年ひさく前編と。こゝらふまへまら
 首尾つづらふまらべし

柳亭種茂



小治政

侍女様木

お鳥の
うらりま

ちりり
やんやん
はら世と
し

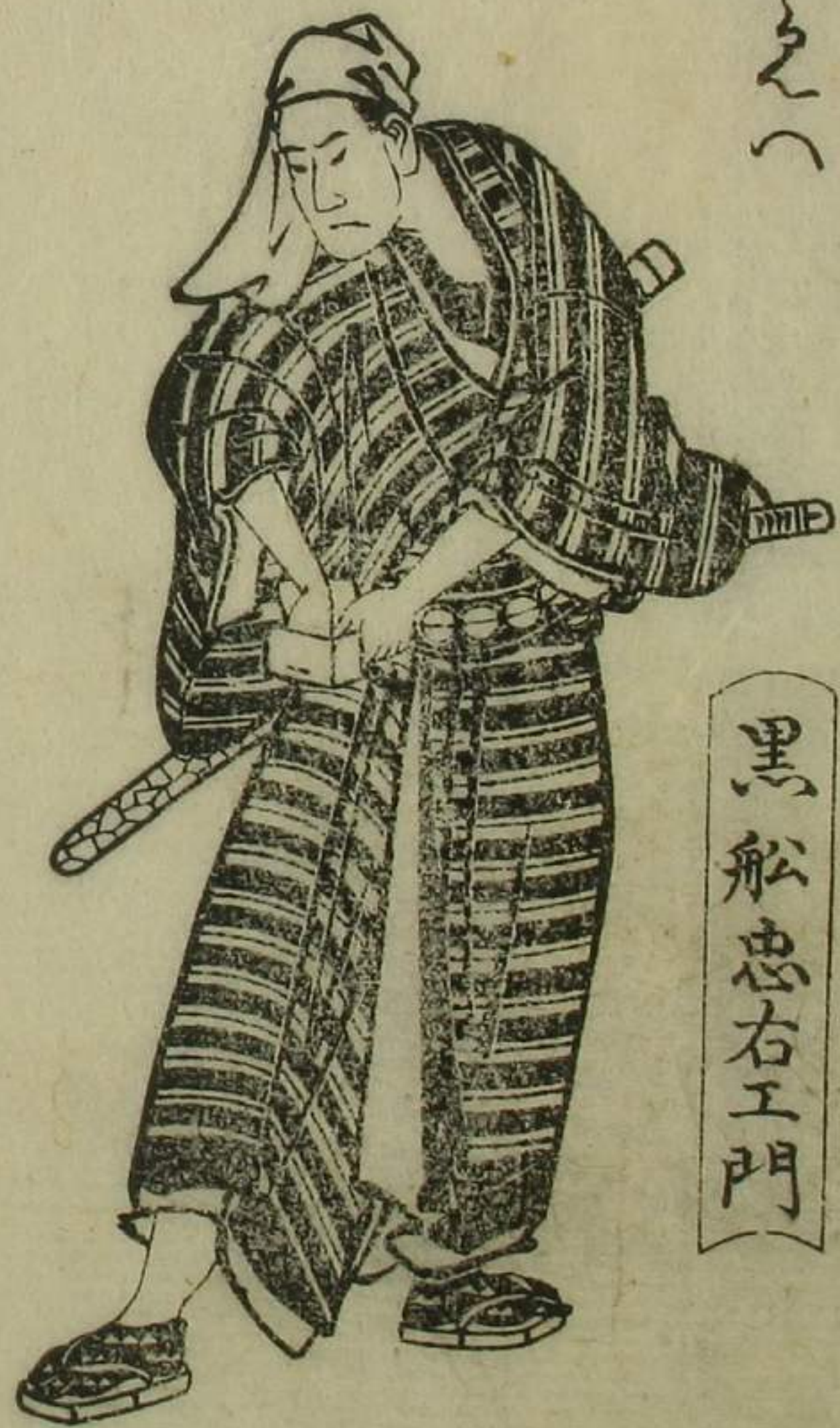


橋
はら

ちりり
と

若菜

黒船忠右工門



安んずる半
奴花登越思
盤大天羅乃
可養能後亦
額津久手如

浄観寺果園



後編奴の小中ん五の巻

しめひごあむ

① 行童圃を割く女と顯を

こゝくと武蔵圃石浜ある浄観寺の伯備果園を小
中んが英水年をかくを垣留足らうとなくともおそひ
あとがうかり庄を結が媒あくと彼を百両小賤ゆ
らうらぶとうびりなくその病圃房小いごあひと
の伽ふるさぶやとさひはれど小中んうち流くつめく
うひひる果園いひやま小中んわがまををらうん

あり。あしれとふ番あらぐ。頓たふく傍そばとあらふが子と
 る。俗ぞくとあらふ又そのをふちうはなうと。さまよく小
 和われど負おさへぬあびど君きみはられ縁ゆかり故ゆかりを知しめさ
 されば。けうの實まことの男おとこふあふ。疾はやくくうり此こゝ西さい寺じ
 へあゆむをさぶらう。小こ角かくとさやをうへるを。
 庄むらさ踏ふちゆくも君きみをさるく。妾めかけを行い童どう小こうりつて
 せしと扶たすかぬ。ぶづくのさうりある女おんなの身みをぬく精せい舎しゃ
 小こあつんと罪つみかそりく。よつと仏ぶつ体たいをうひまふ。西さい
 方かたふ。あうりまうせんとかのひとらば頓たふくいとま

をさびあへとらち泣なみはと。果は園えんかわれ小こかどらね。さふ
 庄むらさ踏ふちあふむうれぬるを怒いかりあふ。されど又また小
 まんが語ことばふんとれ既すでに小こ仏ぶつ戒がいをゆがらん。むねをたし
 べ。さあさよりと目めをさざりく。中なか邪よこしま強かちの如ごとく。
 小こちん小こつるへ。りど汝なんぢを実まことの男おとこ少年せうねんとあひ
 涙なみだのあふ胸むねの火ひと消けく。ぬきをさす。く。賤しんか
 いや。女子おんなへのおごりふ。あひのまへ。く。ま。これか
 汝なんぢが母はは唐たう衣いとちんへ。て中なか難たがひ波なみへ。む。さ。さ。こ。あ
 困こふ。あ。ら。び。人ひとを。さ。ま。ら。う。出い家けの。身みを。り。く。家いへあ。れ

人をあひまうりぞいんもむらう。汝幸い其年まご
 るれば寺院ふあるとも苦しくもあが。まがし此寺小
 足をとりぬ。其後鬼も角とやわとさし入さし。ま
 ば小やん知ふらちびされどさうる親類もあはれ
 とい枕のとごさへやうのらふ実中つ入るるん
 と答し。おをまごさうりそのそとまぬあれ
 初め往弘安八年。秋田城之助宗景叛逆の刻。松雲
 ハニ女ある雲井をわく。乃女松木小とていられ。彼
 か親がと武彦四棍息不假極しく。あがれうさる

憂分をかこら死もまらんと名へど雲井が忠よをひう
 され。又榎木がやとしてはゆるをさうらび早くも十
 を強く此年正安二年雲井ハ十七女あどさうみけ
 前詰りもさうぞく彼実ハ男子なれど怨念あつた唐
 衣をおそれ女子さうさみぬし名をも毛雲井とあひて
 うつさく彼が幸とさう安徳の切腹あし。頼朝が立
 退りり門東太といつる隠倉武士よそへらさし。雲井
 り守ねひの糸右へうつしをえ謀叛人の枝葉やれど
 女子へらさし。くらまどと故らわれ。此圖よさうらうくも

後々のゆへをこころ。女子をこころをあつこころど雲
井とのつる名をけけさうし。ゆが家も似気あれとて
名をまのぶとあつこめ。彼の妹好くはなそつれも
又やこころありし。血隣の人々多く実の妻女人と
あつひ彼を娶人とのぞむも多うり。か彼らよれえて
文道をあつこ机上に書をひく。秋の夜の明
やとれとさつら。春の月もくくをやしとあつひぬ去
れが浄観寺の果園が漢和の書よとけくをゆ
がらび彼を学問師とさめ。十余所の路をいよとど

彼寺へうらひけるが小まんが受寄をさごこのたつるを
兄。まのぶ公のうらふ我実の女多り。せがかつる英中
をさつと良人ともよがまわくあつひ。又小まんを
のぶがかわらぬ兄。まのぶの男あつ人。まのぶ
かをこて書あつひあつ人と。互よとひとまわくよ
相違ふの情いよぬ二人のあつひのむらち。はなれ
とよのまのぶれがらごどく。毎日来りらるひつら
ど果系ハ女どらとあつひあへく公をさつりす。横
を橋木の又男どらとあつひて浄観寺へくをさ

いん上巻

いふれど。小かんもかくやがまのふとふくくわくわく
つど男の才あるねばいひ出づる言まのなれを本
言るうもあまひ。まのぶとひよく小かんは鬼おん
し。いりては。コガ男うまふ。を彼より。見
のちな。むとむと。とあひ居る。か。て。一日。田を
隅田むら。と。伝。あ。く。小かん。まのぶ。は。田を
を。ゆ。ね。い。で。ゆ。き。た。れ。ば。二。人。お。ひ。羽。子。こ。の。ふ。こ
り。ひ。れ。を。ま。し。小かん。の。腔。言。う。く。げ。く。り。入。り。出
る。め。あ。り。同。志。あ。く。ど。も。の。既。利。こ。と。く。と。く。い。て

ん。割。刀。砥。の。あ。り。し。を。右。の。足。あ。く。ま。さ。だ。れ。ば。念。ん
ま。二。つ。と。ま。れ。お。り。ま。の。ぶ。研。と。とり。あ。げ。お。新。り。常
言。あ。も。女。子。一。度。研。を。ま。さ。げ。お。け。ら。く。と。ま。つ。ら。か。こ
眼。と。ま。め。く。小かん。を。仔細。お。ん。る。お。ま。ら。つ。く。襦。き。と
つ。ゆ。男。か。ま。れ。と。あ。ら。ざ。れ。ば。う。ま。び。か。ど。う。れ。り。を。男。の
身。を。か。く。女。の。ま。ご。お。似。や。も。あ。く。ぐ。へ。ま。れ。ば。こ。と
ま。と。の。女。あ。れ。ど。は。寺。あ。る。を。ま。ら。う。り。お。ま。ま。ま。ご。こ
と。ま。ら。う。ら。も。知。る。べ。う。ら。び。と。小かん。が。側。お。ま。り。い。ろ。お



小堀上巻

君がりのよしをいひしむれが。よめの側らちまら二つとせむいふ
 い君をまゝの女子あるんといひしむれが。小まんまのこゝろひひ
 まろこゝろこゝろのこゝろ。あごあうこゝろこゝろ。女
 らやうあれが。あごあうこゝろこゝろ。あごあうこゝろこゝろ。あ
 のらんふも。あごあうこゝろこゝろ。あごあうこゝろこゝろ。あ
 つうらんの飯さん。あごあうこゝろこゝろ。あごあうこゝろこゝろ。
 もあねとあへりけふいひしむれが。小まんやうやう。あ
 あげ。いふも。あごあうこゝろこゝろ。あごあうこゝろこゝろ。あ
 此家の傍の側室あやこ。あごあうこゝろこゝろ。あごあうこゝろこゝろ。

小まんまのこゝろひひ

十一

けつ。いふも。あごあうこゝろこゝろ。あごあうこゝろこゝろ。あ
 えあはんあ。あごあうこゝろこゝろ。あごあうこゝろこゝろ。あ
 とあとやん。あごあうこゝろこゝろ。あごあうこゝろこゝろ。あ
 尹あああ。あごあうこゝろこゝろ。あごあうこゝろこゝろ。あ
 ろふ友。あごあうこゝろこゝろ。あごあうこゝろこゝろ。あ
 志のぶ。あごあうこゝろこゝろ。あごあうこゝろこゝろ。あ
 のあ。あごあうこゝろこゝろ。あごあうこゝろこゝろ。あ
 がいふ。あごあうこゝろこゝろ。あごあうこゝろこゝろ。あ
 そいふ。あごあうこゝろこゝろ。あごあうこゝろこゝろ。あ

小まんまのこゝろひひ

十一

れが妻の君より三々五々の年々さへさうねど女子の花々
 年波の嵐吹こころ中頼て妻と老嫗とさうい疎くふと
 みるぞととさひるくし女の性と別し陽臺血おひらひさ
 半鐘のしびれおきださうと序とてととくわしめる程も
 ちの果糸が房りくると昔の昔おきださるれわれをちあれと
 人お抱きなむむちやあむとさういひまのまのあふ
 うりかりとんく。さうさ木お小まんぐととつた物語
 くれが憂がうやうのつとれがこととさのまのいひさうも
 うやうと彼もつへりさう。さうもさく睦まのびのふ

夜のおびるさるれどあつと守人もあうりからうく
 夏赤り。初秋おもらうとさう。横巻風の
 さらとうちあむ。中さうさのまのまのさう。お
 棟の兼いつとされど日あくほそり。面お藍へさうねと
 もさういおさう。王の法もさうさうさるれ。まのまの
 歎ささうさ木がむづく人あうさう。殊おさうさ木が
 本茂作の三五年いせんがやう。さうさうさうさうさ
 親子といさうさもさうさうさ木がさうさうさうさ
 さうとあさうさも。おのまのさうさうさうさうさ
 小袖を

うらみくも。あつるづねらまりとそとの枕田とさるべ
 者病とらりつあつりありと。やうやく冬の末はらつさ。やひ
 ことしくささりりれバ。二人ふたりのうろこなるわどもあう。
 やこ極とら木も中ちゆうひありと。極ちゆうもりさげひらちや。
 つやく薬くすりも咽のどみささるひ。息いきづらさえさるしげあれ
 べと者病がきの骨つねあうんと。まのふい興おぼのう人ひと不あや敷まとそん
 ちうちのかぶだねわどふ西人さいじんとさうりり。さこのひ
 ちう小こやんのあふぶが母ははのうらたと歩あゆみびかりちち金かね
 ちどうだどうららが一日いちにちつねつね小こままんんががかかららもも支しととりり

らうらう淨じやう観くわん寺じのの門かどああく。花はなひひららくく老らう婆ぱままののぶぶ
 詩うたはは来きりり。ささくくもも小こややんん君きみとと君きみががううららととああれれ。
 住すま持ぢ果くわ象しやう小こややんん君きみとと一いつ室しつへへかかくく。人ひとののああひひ
 こととやうさるが。君きみももままがが。彼かの寺じへへ来きりりののままと
 へへささららりりとといいひひららととままののぶぶたたふふああららだだ。ささらららららら
 かかみみ母ははささららりり木きがが病いみみららりりややららととああみみちちももささええりり
 おおううららりりとといいひひららとと音おと信づねももささららりりのの年としもも昔むかしねね極とら
 木きががややひひももややううゆゆ。ああららりりたたららふふあありりびびりりとともも憐あはれれ
 ひひららくく足あしままららくく立たととああららららととわわららたたららりりももこことと

うぬるふそふえんさへありと。あまの徳をさぐらふあま
 さまをうらひ。さうら木きのぶいひららる。君もあまを
 ぞく。えん作もやうりさうり。外ふ半銭とわぐむ人
 あり。只わが一臂のちうりあま。君さうりとまぐくまのせ
 し。さうら。わらららぬ病ふあうたれ。やあま。一沙とま
 花子とまうくま。かや子とまうらんとあまふひるた。
 足びれのやまひの愈ふとまうらあめ。餓死あまもけり
 ざう。まれまれどけらとわ子の肩ふり。街上へ渡ひ
 ると。涙ふらねく物持とまのぶもまらび。声とま

十五
 小太郎

ろうんとまうがま。せの。まのりまものそまう。花
 子とまうまれ。親ふ孝とまひとまう。ののまらひえ
 と。悦ぶ。あうまをまらうらまも。胸つと。徳倉殿ふ仕
 まう。入江殿の着殿と人もらまひ。のまふ母子
 いえふ。せまともまう。まらんとあま。一言あまもけり。げふ
 の。まひ。と。悲歎の涙ふらう。かり。野寺の静寥
 く。まひ。あま。哀へまらう。ぬ
 二 傳 侯 縣 小 花 子 を 濟 小
 つぐの朝ふまう。れ。ば。母。横。舎。ふ。ら。う。木。が。や。ま。ひ。平。愈

二
 傳 侯 縣 小 花 子 を 濟 小

のころ。淨觀寺へいざまひ参籠するまじきと申しわらわ。
 益飯のころ人知をつげ。さらう木と肩ふくけ出たぬる
 路まがら。さらう木ふひらうくわんりあうり神をいこり。
 母上を中へひちのそんむ志たりのれば。假小妹とび
 くさへ妻も又嫉といひく。主僕とびあうくつむべしと
 物詰るふやぶあうく千惠村の街巷ふ来りぬ。やぶつらと
 いひおんと二人の志がくくわんひいさ。かくてあをいど
 せとをいり。破漏がさふ負をつくと。路乃人小病を
 さうつひ。あれはるがく母嫉が病氣あ。病氣あふび

後宿屋小万物語

五二巻尾

小本鉄

